

広報



ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話 (018876) 代 2100番
 印刷所 湖東印刷所 電話 (018876) 2430番 一部 5円
 郵便番号 018-117 每月 1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,938 世帯
 人口 17,595 人
 内訳 男 8,471 人
 女 9,124 人

住民登録調 (49年8月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。



読書も若返りの方法です。ひまをみては本に親しむ畠山（上山内）さん

やつてきた高齢化社会

家族で老後を明るく豊かに

きょう九月十五日は敬老の日であります。昭和四十一年から国民の祝日に加えられていますが、これは神戸市の発想で九月十五日を老人の日と定めたのがはじまりで全国的にとりあえられ、昭和二十六年から昭和三十九年まで「としよりの日」という名称を使っていました。その後老人福祉法が認められてから、老人の強い要望もあり、「敬老の日」と改められ、国民の祝日にに関する法律の改正に

より「敬老の日」として再び改められております。

わが国の平均寿命は、昭和十年に男四十七才、女五十才であった

が二十六・〇三才と大巾な寿命の伸びをみています。なお、高齢人口の増加についてみますと、六十五才以上の人口が昭和二十五年の国勢調査で四百十一万であったものが、昭和四十五年には六百八十八万に増えており、昭和四十五年には七百三十万となつて、昭和五十年には千二十八万となつて、一千万の水準を突破する

だらうとみられています。

本町の場合も、六十才以上の人口動態についてみると、昭和四十五年には二千百二十九人であったものが、昭和四十九年四月一日現在で、二千三百八十二人となって総人口の十四%台を占めるにいたつております。

以上の数字の流れからして、高齢化社会はまぎれもなくやってきていることを物語っています。

老人をめぐる問題は非常に多くあ

ります。基本的なものに、老人のみ

なさんが、どうしたら明るく豊かな

毎日を送ることができたろうか、

といふことです。

わが国には伝統的な直系家族制度があつて、農村部では今なおそ

の伝統を受け継いでいますが、生活が都市化するにつれて、急速度

に核家族への分離が後退しています。

お、高齢人口の増加についてみますと、六十五才以上の人口が

抜きなどと、おだやかならぬ老人拒否反応が出て数年になります

しあし。このような結婚条件を提案した若い人にも、老後は確実にや

つてきます。自分達の老後を豊かにするためにも、さすがに現在の老人

を大事にすることから始めてはいかがなものでしょうか。

厚生省から発表された、昭和四十年の簡易生命表によりますと、男七〇・七才、女七六・〇二才と

わが国には伝統的な直系家族制度があつて、農村部では今なおそ

の伝統を受け継いでいますが、生活が都市化するにつれて、急速度

に核家族への分離が後退しています。

お、高齢人口の増加についてみますと、六十五才以上の人口が

抜きなどと、おだやかならぬ老人拒否反応が出て数年になります

しあし。このような結婚条件を提案した若い人にも、老後は確実にや

つてきます。自分達の老後を豊かにするためにも、さすがに現在の老人

を大事にすることから始めてはいかがなものでしょうか。

△広報サロン
沖縄に旅して

入所者 永井賢司



このたび老人ホームの好意により、念願の沖縄へ旅行することが出来ました。ことはホームの解放的な明るい楽しい生活指導のあらわれと深く感謝の意を表せません。去る八月二十三日出発し二十八日には帰町しましたが遠いと思った沖縄はすぐ隣のようなもので、羽田から飛行機で二時間半で到着しました。真夏というのに五城目町によしのぎよいと思いました。那覇市は内地の市街とあまり変わりありませんが、市外の所々に独特な建物や遺跡があり、沖縄にきた感を深くしました。特に日本軍終末の地である摩文仁丘に立つ慰靈塔に参拝し、住民が飛び込み自決した、パンザイ断崖等を見たとき、当時の苦難が偲ばれ感無量でありました。

米軍基地の広い芝生の外人住宅と軒を接した一般的な住宅とが対象的でした。植物園は熱帯植物が豊富で美しい花が咲き、海岸公園はサンゴ礁が横たわる海岸は見られない澄んだ美しい海が見られます。又ホーネーで海中展望が出来

サンゴの林立したなかを、色とりどりの魚が舞う珍しい景色に、

ぱし老を忘れる心のさわやかさをおぼえました。自然の美しさは、健康にもよく、長生きにつながり、変

った風物風習に接することによっては生涯教育の一端でもあります。

老人の皆さん健康なうち、少しでも見聞を広め楽しむ暮らしができる

かもしれません。



今町の小杉田さんは77才になる曲げわっぱを手がけてから60余年。手さばきも若く、重厚な作品が生れています。

つい最近、陶芸家で人間国宝である浜田庄司先生から、望まれてその作品を贈っている。生涯一筋に打ち込める仕事のある人は幸せである。

敬老特集

たつた一度の人生を

豊かに楽しく

われわれが誰も避けて通ることの出来ないのが、老人になるということです。人間として真に豊かな人生を送るためにには、やはり老後の生活設計を若い時からたてておく用意が必要です

とかく老人といえば、古い潜入観念で、常に貧しく、からだがガタガタであわれむべき存在であるといった印象、がんこで意地悪、そのくせ若いものは老人をいたわらなきやんいかん、与えられるべきだという期待感をもっています。われわれの社会にはこんな老人觀があるわけですが、それをできるだけぶちこわして、新しい時代に即応した老人像を作りあげていく必要があります。

老人のいやがらせや意地悪と思われる行動は、生活の場において、何時も周囲から自分の存在を引きつけるためだったり、なんとか家族とかかわりあいを持ちたいからで、どうしようもない寂しさを無意識のうちに紛らわそうとする代償行為だとされています。老人をめぐる家庭のトラブルも、嫁だけが老人の孤独解消の対象になっている場合が多いようです。

そこに老人クラブの必要性が生まれております。人生での喜びや悲しみをお互に分ち合える相手が必要になってきます。

町でもいろいろな施設を通じて、そのための配慮をしております。それが、年金、医療費の無料化、老人福祉大会、敬老式福祉バス、一人ぐらしの老人電話、老人介護人、ヘルパー、居室改善、老人スポーツ大会などの形になってあらわれています。以下老人をめぐる数々を写真やカットによってその活動振りを紹介します。たつた一度の人生です。環境はどうあれ、自分自身大切にしながら、趣味を持ち、交友を広めつねに積極的に社会とかかわり合いを持ちながら、明るく豊かな老後を作りあげてほしいものです。



下山内老人クラブは、寺の境内を年に三度定期的に清掃作業をする。



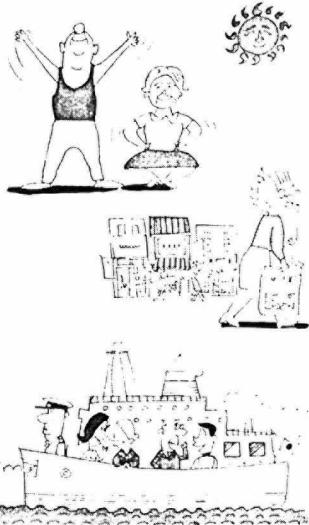
9月1日敬老式、70才以上977人、600人の参加者あり
写真は町長から記念の座布団を贈られる、77才のみなさん。



老人奉仕団は毎年馬場目川堤防の草刈清掃をおこなう。暑いさ中壯者をしのぐ働き振りで、またたく間に仕上げてしまう。地域住民より深く感謝されている。



大川の八柳さんは男の最高齢者で90才。イキな背広姿がよく似合う。いつまでもお元気で~町長の言葉に握手で答えていた。



不老長寿の条件を満たしているものは何んでしょうか。ある百歳の老人から、①性格明るく楽天的 ②歯は丈夫で食べ物に好き嫌いがない ③生活態度は眞面目で規則正しい ④自分の役割を見失してよく働く ⑤貧しくとも満足感をもって生活にはげむ



老人スポーツ大会～雀籠公園でボーリングゲームを楽しむ老人たち。



古川町出身の応援団長。声よし、手振りよし、男振りよし。老人スポーツ大会に花を咲かせた一人



老後の生活を豊かにするために年金があります。若い人々も今から自分のための配慮を忘れないでほしい。



老人ホーム森山荘では、毎日運動がわりに、民謡踊りをやっている。そのためぐんと若くなったとか

老人の運動不足は老化を早めます。足腰にかぎらず、全身の筋肉の老化を防ぐには、毎日の散歩が最適です。
・自分の体力の範囲内で早く歩くこと。
・息切れしないときは、長いほどよい。
・うつら汗ばむ程度を目安にする。
・動脈硬化の予防にも役立ち、脳の働きもよくするから、い

つも新鮮な感覚で生活を楽しめる。

人間のからだの機能は、の中にどこもってだけいると言われます。趣味に生きるものもよいでしょう。機会があることに未知なところへ旅をするのも、またよいでしょう。没入できる楽しみから、心にゆとりとはがりが生れます。

五城町の
100年

64

終戦のあとで

一 食糧危機

小野一
二

五月にこの項の一回目を書いて消防百年を記念して消防力の充実について三回書いて中断していましたが、今月はそのつづきである。

二〇年（一九四五）八月一日以降の夏は、特別に暑くやりきられなかつたようと思う。どんなに暑くてももう燈火管制をして空襲をおそれるということもなかつた。肌を出して夕々すみと出来るようになつた。

この年の米の作柄はよくなかつた。人手不足、肥料、農器具の不足という悪条件が重なつては、農業増産はただのかけ声にすぎなかつた。そこへ復員や海外からの引き揚げによる人口増加がみられ、食糧難は年末から深刻なものになつた。戦争末期の七月のおとな一人当たり一日の米配給量は二合三勺とされた。農家以外の家では、カユミを主食量としてはぎりぎりの量であるだけではなく雑炊にしてのいた。

ところが、戦後の十月ごろには二合一勺が米以外のイモやダイスを米に換算して配給する状態になつた。この傾向は、後にもつとひどくなり、軍需のサケ缶詰などになり、キューべ糖などといふからさざした砂糖になつたりした。カロリーは同じでも砂糖をなめても腹はいっぱいにならない。この食糧危機をのりこえるには農家の米の供出にたよるしか

なかつた。しかし、戦争中どちらがい政府や県の命令には迫力がなければ、いたし、農民自身命令をきく気がなかつた。供米に対する報償制度を設けてみたが、供出は不振であった。

そこで、政府は二〇年産米の供出をあくまで完遂しようとして、二年（一九四六）二月に食糧緊急措置令を勅令で求め、どうしても供出に応じない農家に強権によって、保有米を収用しようとした。また、食糧管理法を改正して、米の移動を禁じてしまった。だから米を持って歩いても、違反になり沒收されてしまう。ヤミ米の移動はこれによって相当困難になつたが家庭で育ちながらの子どもをかかえたり、人數の多い家では、付近の村の親せきや知り合いから米をわけてもらうことも容易でなくなつた。

この頃の流行語に「強権発動」というのがあるが、米の強制供出によって生まれたものである。戦後の食糧危機は都会でいつそう深刻であつたから、ヤミ米も東京まで運ぶことが出来れば、大きな利益になつた。

ヤミ米買出し部隊が町にやってくるようになった。第三国の人達が多かった。農家はおどされて米を売った。ヤミ米を五城目駅から運ぼうとするのを没収され、うとして乱闘になり、消防署員まで出勤し、警察署長、警官が傷つくという事件もあった。



ななかがわ通信

サラリーマンの奥さんの年金について

県や町ではこの事態を重視し、燃焼禁止の呼びかけ、注意報の発令などで農家の協力を求めてきた

が納取機械の普及にともない年々

止条例の一部を改正し、昭和四十年三月三十日付で、
合樹脂等著しい火薬を発生する物質の屋外燃焼を禁止してい

る。

このため県は、秋田県公害防

止条例の一部を改正し、昭和四十一年三月三十日付で、
合樹脂等著しい火薬を発生する物質の屋外燃焼を禁止してい

る。

このため県は、秋田県公害防止条例の一部を改正し、昭和四十年三月三十日付で、
合樹脂等著しい火薬を発生する物質の屋外燃焼を禁止してい

る。このため県は、秋田県公害防止条例の一部を改正し、昭和四十一年三月三十日付で、
合樹脂等著しい火薬を発生する物質の屋外燃焼を禁止してい

る。

このため県は、秋田県公害防止条例の一部を改正し、昭和四十一年三月三十日付で、
合樹脂等著しい火薬を発生する物質の屋外燃焼を禁止してい

る。

このため

止

規制

がな

る。

このため

止

規制

